

視聴覚教育功労者

「視聴覚教育功労者」表彰は、中央功労者と各地功労者を対象に、毎年、日本視聴覚教育協会会長表彰として行われている。本年度、中央功労者は、教育工学、視聴覚教育等の指導に、または学校における視聴覚・放送教育の研究と推進に尽力し、今日の発展に貢献され永年にわたって功績のあった2名が表彰された。各地功労者は、全国各地で視聴覚教材の利用や普及に貢献された方々35名に対して、各教育委員会を通じて伝達表彰される。

日本視聴覚教育協会会長表彰（中央功労者）

篠原 文陽児（しのはら ふみひこ）



同人は、昭和23年12月10日生まれ、昭和47年東京理科大学を卒業後、昭和49年国際基督教大学大学院教育学研究科修士課程、昭和52年博士課程を終了。

昭和52年、私立金沢工業大学講師、昭和55年東京学芸大学教育学部で助教授・教授を勤め、平成26年3月定年退職。現在、東京学芸大学教育学部特任教授。

昭和54年、日本視聴覚教育学会（現在は日本教育メディア学会）に入会、平成6年から同学会理事、事務局長、編集委員会副委員長、副会長を務めるなど18年間にわたり、学会の発展、運営、学会誌の充実に尽力した。

また、昭和58年、文部科学省開催の視聴覚教育研修カリキュラムに基づく上級者研修において、

CAIシステムの教育方法と技術に関する講座を担当し、その後同研修会において「コンピュータ研修の企画とソフトウェアの開発」「マルチメディア教材の開発」の講師を務めた。また、同人は各県市教育委員会、国際協力事業団、視聴覚教育関係団体において、教育工学、特にCAIシステムの教育方法と技術の理論およびその応用についての指導者として、永年にわたって多大の貢献をしてきた。

昭和63年からは、(財)日本視聴覚教育協会が文部省の助成により実施した「ニューメディア教材の研究開発事業」に、企画委員として参画。日本初のハイパーメディア教材「文京文学館」の開発に携わる。その後「教師のメディア行動に関する調査」、「マルチメディア等の教育利用に関する研究」、「地域映像情報のネットワーク化」、「インターネットによる英語学習」についても参画し、適切な助言をした。

以上のように同人は、永年にわたり教育工学、視聴覚教育等の理論的および実践的な指導面において幅広く活動してきた研究者として、その功績はきわめて顕著なものと認められる。

（現住所：東京都江戸川区）